

## 平成26年度 第1回 港湾技術基準のあり方検討委員会

### 議 事 概 要

日時：平成26年12月17日（水） 13:00～15:00

場所：経済産業省 別館 310号会議室

- 事務局より委員会の設置及び港湾技術基準の改訂方針について説明し、その後、意見交換を行った。
- 各委員からの主な意見は以下の通り
  - ・ 設計実務者にとって、現行のレベル1信頼性設計法（部分係数法）は、力学的なイメージが持ちにくい。この解消を図るため、事務局より提案のあった新たな部分係数法の検討を進めて欲しい。
  - ・ 小規模な施設の設計も多い。大小の施設全てを数値シミュレーションや水理模型実験等の高度な設計手法でやるのではなく、簡便な設計方法を検討して欲しい。国際標準化を検討する観点からも、簡便な方法・高度な方法と、複数の方法を示すことが重要。
  - ・ 設計における維持管理への配慮について、新設時の設計だけを対象にするのではなく、既設の補修設計に係る考え方も必要。
  - ・ 大型クルーズ船の来航が増えており、係留する既設岸壁の性能照査等、船舶の大型化への対応は重要。
  - ・ 既設構造物の改良について、設計事例集が充実できればよい。
  - ・ 防災について、粘り強い港湾構造物の設計方法にのみ集中するのではなく、岸壁等の天端高さの設定等、広い範囲で検討が必要。
  - ・ 冊子媒体の電子化について、進めて欲しい。
  - ・ 改訂する技術基準については、十分な試行期間が必要。